

# 人権教育シリーズ

## 命のリレー



さぬき市立志度中学校  
三年 山下 春乃

毎日のように、命がなくなるニュースが、新聞やテレビで伝えられています。それらは、悲惨な交通事故や殺人事件、様々な悩み、いじめや暴力による自殺など、尊い命が失われてしまう非常に残念な出来事が多く、いつも私は悲しい気持ちになります。私の母は、悲しいニュースを見るたびに「あなたの心はあなたのものだけ、あなたの命はあなただけのものではない。あなたの命は、お父さん、お母さん、そしてあなたを大切に思う人たちのものでもあるんだよ。だから、みんなのために、自分の命を守る責任があるんだよ。」と言います。私はこの母のことばかりから、自分の命が、父や母、その父や母の両親である私の祖父母、そしてその前の世代からつながっていることを考えます。相田みつをさんの詩に「父と母で二人 父と母の両親で四人 そのまた両親で八人 こうしてかぞえてゆく」と十代前で千二十四人に二十代前では...? なんと百万人を超すんです。過去無量のいのちのバトンを受けついで、いまここに自分の番を生きている。それがあなたのいのちです。それがわたしのいのちです」とあります。私の命は、何世代にもわたって私につながっています。だからこそ、母の言うように、私は、私の命を大切に守っていかなくてはならないと思います。

では、私は自分の命を本当に大切に考えているだろうか。私は、毎日学校に行って、勉強して、クラスのなかまと時にはぶつかってもあるけれど、楽しく過ごしています。そして、その日常を当たり前のように思っています。しかし、世界の国々では、その当たり前が決して当たり前ではない現状があります。戦争や紛争によって、日常生活が危険にさらされ、多くの命が奪われています。そんな状況の中では、一日を生き抜くことがどんなに大変なことか、自分や家族の命を守っていくことがどんなに難しいかを考えさせられます。

私はこの四月に修学旅行で沖縄へ行き、戦争体験者の方のお話を聞かせていただきました。その方は、戦争で家族を十三人亡くし、自分も手りゅう弾で足にひどいけがを負いました。そのせいで、何度も死にたいと思いましたが、残った家族が生きていることを毎日確かめ、励ましあいながら生き抜いてきたそうです。

語り部さんのお話を聞いて、戦争の恐ろしさやむごさが十分に伝わってきました。そして二度と戦争を繰り返してはいけないという思いと、その悲惨な状況の中でも、懸命に生き抜いてきたたくさんの人たちの勇気を感じました。

私の曾祖父は九十三歳で亡くなりました。曾祖父は戦争体験者でしたが、戦争のことを家族が聞いても、何も語ろうとしなかったそうです。極寒の地、シベリアで抑留された曾祖父の身に何が起きたのか。とてつもなくつらい、悲しい体験をしたのだらうと想像するしかありません。曾祖父は何でもよく食べ、働き、自分の命を九十三歳まで大切に守り、全うしました。

多くの命が犠牲になったシベリア抑留から、曾祖父は無事生還しました。これは本当に奇跡に近いことです。その曾祖父から私の両親は命を受け継ぎ、そして私もその命のバトンを引き継いでいます。そう考えると、「生きる」ということは、「命」というのは、本当に奇跡の連鎖だと改めて感じます。私は今、次の世代にわたすバトンを託されています。そのバトンを持って、私はどう生きるべきか。戦争の歴史を踏まえ、今の日常の平和に感謝して、目の前にあることから逃げず、一日一日を一生懸命に生きていこうと思います。

【問】人権推進課 ☎(087)894・9088

## 少年育成センターだより

家族と一緒に考える活動を通して、青少年の健全育成や非行防止等についての理解を深め、問題意識を持つてもらおうとともに、親子のコミュニケーションや絆を深めていただくとうと、さぬき市少年育成センターが、市内の児童・生徒から募集した「平成二十九年 家族みんなで考える青少年健全育成標語」の入賞作品が決まりました。

応募してくださったみなさん、すばらしい作品をありがとうございました。

### 最優秀 一名

どこいつきよん?

きいつけまいよ

地域はぼくらの見守隊

長尾小学校 五年

梶原 光名理

### 優秀 十三名

「やつてない！」 見てたあなたも いじめつ子

ありがとう！ たかが一言 されと一言

好奇心 ちょっとのつもりが 悪の道

行き過ぎた いじりといじめは 紙一重

こんにちは みんなであいさつ いい笑顔

なんでもいつて なんでもきくよ うれしいことも かなしいことも

みてたけど みてみぬふりは もういじめ

立ちどまり 心のものさし はかつてみよう

おいかけて いまならまにあう ごめんなさい

言わないよ 心がぎすつく そのことば

SNS どこかにおきざり 心の扉

しっかりと話そう自分の気持ち しっかりと聞こう相手の心

タッチする スマホじゃなくて わが子ども

★少年に関する相談・情報は

さぬき市少年育成センター  
少年相談専用電話

☎(0879)42・1012  
☎(0879)42・55335